

## 【ニトリホールディングス（9843）：2021年2月期第1四半期決算日経観測記事について】

## 第1四半期決算の営業利益は20%増益

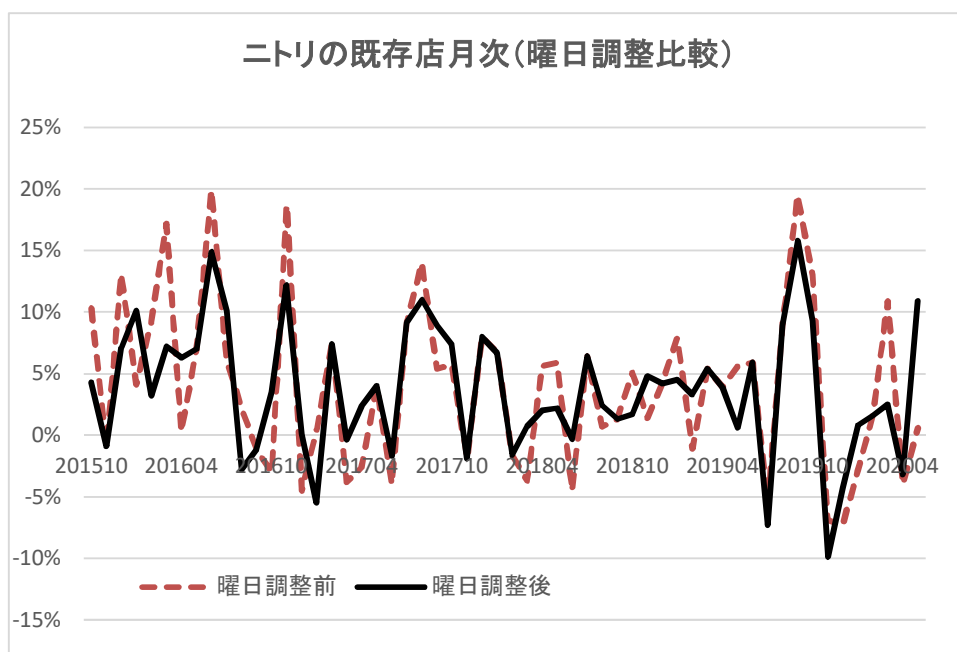
6月18日付日経紙がニトリホールディングス（9843）の2021年2月期第1四半期決算の観測記事を掲載したので、それについて報告する。

日経紙によると2021年2月期第1四半期決算は3%増収、20%前後の営業増益となった模様である。既存店伸び率はコロナにもかかわらず2%増と順調であり、為替も予約がうまく行ったため円高となっている。しかし、それだけではここまでの増益は考えられないが、国内および海外への移動自粛で出張費が大幅に減ったことや、宣伝する環境にないことから宣伝費も減ったことなどが大きく貢献したと考えられる。また、飲食を伴う会議費、交際費などの減少もあったのではないかと推測される。

銘柄名	ニトリホールディングス		コード	9843								
株価(2020年6月19日)	19,715 円			PBR(20/2実)		3.96 倍		ROE予		13.5%		
株数	112,467 千株			配当利回り(21/2予)		0.6%						
配当	115 円			時価総額		22,173 億円						
発行済み株式数	114,443 千株			株主資本		560,571 百万円						
自己株式	1,976 千株			BPS		4,984 円						
決算期	数値区分	売上高	伸率	営業利益	伸率	経常利益	伸率	純利益	伸率	EPS	PER	月次平均
(連結)		百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	倍	既存店
19/2 2H	実績	306,437	6.4	44,889	-0.8	46,294	0.2	30,222	3.5	268.7	-	-
20/2 1H	実績	321,598	6.6	55,577	-0.6	56,540	-0.4	36,847	-2.9	327.6	-	-
20/2 2H	実績	320,675	4.6	51,901	15.6	52,982	14.4	34,548	14.3	307.2	-	-
21/2 1H	会予初	318,900	-0.8	57,700	3.8	57,900	2.4	39,100	6.1	347.7	-	-
	ARJ予	335,874	4.4	67,609	21.6	68,409	21.0	45,834	24.4	407.5	-	-
21/2 2H	会予初	334,300	4.2	54,500	5.0	55,400	4.6	36,600	5.9	325.4	-	-
	ARJ予	336,735	5.0	51,655	-0.5	52,755	-0.4	35,346	2.3	314.3	-	-
2016/2期	実績	458,140	9.8	73,039	10.2	75,007	10.4	46,969	13.3	417.6	47.2	3.2%
2017/2期	実績	512,958	12.0	85,776	17.4	87,563	16.7	59,999	27.7	533.5	37.0	5.5%
2018/2期	実績	572,060	11.5	93,378	8.9	94,860	8.3	64,219	7.0	571.0	34.5	2.9%
2019/2期	実績	608,131	6.3	100,779	7.9	103,053	8.6	68,180	6.2	606.2	32.5	2.7%
2020/2期	実績	642,273	5.6	107,478	6.6	109,522	6.3	71,395	4.7	634.8	31.1	2.3%
2021/2期	会予初	653,200	1.7	112,200	4.4	113,300	3.4	75,700	6.0	673.1	29.3	-1.4%
	ARJ予	672,609	4.7	119,264	11.0	121,164	10.6	81,180	13.7	721.8	27.3	3.0%
	ARJ予(旧)	667,964	4.0	115,001	7.0	116,101	6.0	77,572	8.7	689.7	28.6	1.0%
20/2 1Q	実績(3ヵ月)	167,332	6.1	30,431	0.0	30,722	0.1	20,348	3.2	-	-	4.9%
20/2 2Q	実績(3ヵ月)	154,266	7.1	25,146	-1.2	25,818	-1.0	16,499	-9.5	-	-	3.1%
20/2 3Q	実績(3ヵ月)	159,900	8.9	28,895	30.5	29,503	28.9	20,660	46.9	-	-	8.5%
20/2 4Q	実績(3ヵ月)	160,775	0.7	23,006	1.1	23,479	0.3	13,888	-14.0	-	-	-2.9%
21/2 1Q	日経(6/18)	172,352	3.0	37,000	21.6	37,300	21.4	24,991	22.8	-	-	2.0%
21/2 2Q	ARJ予想	163,522	6.0	30,609	21.7	31,109	20.5	20,843	26.3	-	-	4.0%
21/2 3Q	ARJ予想	163,098	2.0	26,617	-7.9	27,217	-7.7	18,235	-11.7	-	-	0.0%
21/2 4Q	ARJ予想	173,637	8.0	25,039	8.8	25,539	8.8	17,111	23.2	-	-	6.0%

既存店は2.0%増と順調であった。同社の場合、20日締めであり、今年はいうるう年で1日多かったことはあるが、5月の連休が大きく減少したことも考え合わせると、ほぼ曜日回りは前年並みであったと言えよう。既存店は見かけ上、3月の水準が高く、5月は0.6%増と低くなっているが、曜日調整をした実質では10.9%増であったと会社側では見ている。6月の

前年水準は5.9%増とやや高めであるが、ホームワークが増えていることで、ホームワークに関連する家具製品の需要が増えていることから、まずまずの水準で着地するのではないかと考えられる。なお、6月の月次公表は6月23日を予定している。



同社では今期の既存店の前提を上期 3.8%減、下期 1.0%増と置いている。それに対して第1四半期が2.0%増であり、特に上期中心に大幅な上振れとなろう。第2四半期は第1四半期ほどではないがまだまだ自粛ムードが継続しており、経費的には使えない状況が続くことから、利益自体の伸びは上振れよう。下期に関してはコロナ一巡で売上は順調となろうが、一方で費用は通常ベースに戻る。加えて、同社はこういった世間が困っているときに積極的に投資を行う体質であることから、今期に関しても比較的早めに積極投資の方向に向かうものと考えられるため、下期の利益の伸びはやや低めの見通しとする。なお、第3四半期は前年度の消費税仮需の反動から減益の見込みとした。

当クラブでは従来から今期の業績見通しは会社計画比で増額修正としていたが、以上のことを勘案し今回さらに上乘せとし、4.7%増収、11.0%営業増益予想とした。

## 投資判断

株式市場は金融緩和と財政出動から企業業績の回復に先駆けて強い動きとなっている。その中で、先行したコロナ特需銘柄は若干高止まり傾向にあり、先々の反動も考えられることから、なかなか手が出しにくい。一方でコロナデメリット株の中にはすでに完全回復まで織

り込んでしまった株も散見され、回復しても織り込み済みという評価になる恐れがある。

同社の場合、一時的なコロナ特需があったわけではなく、反動減の心配はない。また、リモートワークの常態化も考えられる中で、オフィス家具から家庭用の仕事関連家具への需要シフトという恒常的な市場拡大の恩恵もある。しかも、当面の業績環境も良く、さらには世間が困っているときに積極投資を行ってさらにライバルに差をつける可能性も大きい。その意味ではこのような時期に買われやすい銘柄の一つではないかと考えられる。

当クラブの今期予想ベースの PER は 27.3 倍と十分許容範囲のバリュエーションとなっている。よって、レーティングは BUY 継続であるが、短期的にも強気のスタンスで臨んでいい局面ではないかと考えられる。

なお、決算発表自体は 6 月 25 日に予定しており、即日決算説明会が開催される予定である。

#### 週足・売買高チャート



(C)QUICK Corp.

#### 注意事項

当レポートの株式に関する記述は、投資の勧誘を目的としたものではありません。情報の内容も私の観測であり、不確定要素を多く含みます。当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社では一切の責任を負いません。投資判断はすべて自己責任にてお願い致します。